

患者さまの血液を利用した再生医療による安心な骨造成

東京大学医学部分院にインプラント治療が初めて導入された平成 11 年にインプラント治療を開始し、その後、アメリカでインプラント専門医 (mastership) となった総院長は、2012 年にアメリカのマイアミでインプラント指導医 (diplomate) の資格を得ました。しかし、インプラント治療のためにご遺体からの骨や牛の骨を移植するという、アメリカのインプラント治療の考え方には抵抗がありました。動物の骨や、ご遺体からの骨を移植する骨造成治療が有効なのは事実ですが、やはり、未知なる感染症などのテクニカルエラーや、供給源のご遺体の問題など、できれば避けたいということが私の信条です。



〈骨に置換する β -TCP の顆粒〉

β -TCP は、総院長が東京大学医学部で間葉系細胞を軟骨細胞に分化誘導させる研究で使用していました。骨造成に於いて β -TCP の顆粒は、本物の骨に変化するときに、吸収されるため、完全な骨に置換されます。

日本でも、他院では、顎骨を造骨する手段として、動物の骨やご遺体からの骨を使用いられている場合も多いようですが、東京審美会では、一貫してご遺体からの骨や動物由来の骨は使用せずに患者さまからの血液を利用した再生医療による安心な骨造成を行っています。



〈気孔率世界一のハイドロキシアパタイト〉

ポップコーン状の空洞が85%もあり、血液の吸収力が非常に高いため、空洞内部から外周に安定した骨を形成します。ハイドロキシアパタイトは吸収されないために、新しくできる骨のボリュームを維持する殻として使用します。

東京審美会は、再生医療安全確保法に基づき、厚生労働省より特定細胞加工施設に認定されており、東京審美会なら第3種再生医療により、患者さまから採血させていただいた血液を用いて、骨の再生、骨を覆う膜を作製することができます。



【採血から再生医療によるCGFを作成 術者 中田圭祐】

また、骨の成分であるハイドロキシアパタイトの顆粒に再生医療のフィブリンゲル、骨の生育を促す β -TCPの顆粒を必要に応じてブレンドし、安心な方法で新しい骨の造成を行っ

ています。



〈ドイツ・ボティス社の骨ペースト〉

骨の成分ハイドロキシアパタイト（60%）と骨の分化誘導を促す β -T C P（40%）が、混合されています。

東京審美会の骨造成は、長きに亘って患者さまに安心をお届けするために、
安心で安全な材料にこだわり続けます。